

<実践報告>

グローバルコモンズにおける LINK 主導の多言語イベント実施報告 —「話そう！」イベントを主催する学生スタッフたちの挑戦と学び—

杉江 昌子¹・船山 凌雅²・吉本 航基²・出口 結葉³・原田 優音³・モルチュノワ・ヴェロニカ⁴

京都産業大学のグローバルコモンズ（GC）では、2021年4月に始動した学生ボランティアスタッフ（LINK）の主導で、外国語や異文化に触れながら学生同士を結ぶ様々なイベントを実施している。当初に立ち上げた英語イベント「Discussion in English（DiE）」は、現在も多く参加者を集めている。2022年4月以降は、DiEを基盤に、学生の専攻や専門分野を活かした新たなイベントが生み出され、参加者層を広げながら活発な活動を続けている。多言語イベントでは、2022年11月に開始した「ロシア語で話そう！」をきっかけに、2023年5月には、スペイン語とドイツ語の会話イベントも始まり、毎週定期的に開催している。本稿では、ロシア語・スペイン語・ドイツ語、3つの「話そう！」イベントを主催する学生スタッフたちと共に、立ち上げの経緯と概要、実績を報告する。また、主体的な取り組みを通じて彼らが得た学びと経験について共有する。更に、GCの学習支援の観点からの考察と今後の展望について述べる。

キーワード：多言語イベント、学生スタッフ、主体的な学び、学習支援、アクティブラーニング

1. はじめに：LINK 活動の始動から現在

グローバルコモンズ（GC）学生ボランティアスタッフ「LINK」は、2021年4月の始動以来、外国語や異文化について楽しく学びながら学生同士をつなげる様々なイベントを実施している。コロナ禍において、1期生11名で開始したLINKは、2023年春学期に第5期のメンバーを迎え、現在（2023年9月時点）で、55名が登録している。

これまで、「英語」、英語以外の言語を扱う「多言語」、「異文化・交流」の3つのカテゴリーで様々なイベントを展開してきた。語学力の向上や交換留学生との異文化交流を目的とするイベントを通じて、参加者にとって満足度の高いイベントを提供し、活発な活動を続けている。

<英語ディスカッションイベントに見られる進化>

2021年4月のLINK始動当初、学生スタッフ3名の「英語を使う場が欲しい」という自身のニーズから始まった英語ディスカッションイベント「Discussion in English（DiE）」は、2年を経過した現在も、毎週2～3回のペースで継続的に開催されている。主要なLINKイベントとして、参加者層を広げつつ、毎回多くの学生の参加がある。

2022年度は、「Dig into international issues

（DIG）」や「Power of Economics：英語で経済を語ろう」など、DiEをベースに、国際関係や経済に関するトピックを取り上げて、学生の専門知識を駆使して英語で議論する上級対象のディスカッションへと進化した。同時に、英語に自信のない参加者に対する初級向けの「Enjoy English!」も新たに設けられた。このように、学生スタッフがイベント中に自身と参加者のニーズや要望に敏感に気づき、改善策を考え、積極的に取り組んだ結果として、新たなイベントがより良い形で実現していった。

<多言語イベントに見られる進化>

2022年秋学期（11月）に、ロシア人交換留学生の提案で「ロシア語で話そう！」が開始された。以前にも、英語以外の言語を扱うイベントの開催はあったが、担当可能なスタッフの不足に加え、学生のニーズが少ないとの予想から、1回限定での開催が主流であった。「ロシア語で話そう！」は、予想を覆し、ロシア語専攻の学生を中心に好評を博し、結果として週2回の頻度で開催される形となった。それに影響を受けた学生スタッフが、2023年春学期に、「スペイン語で話そう！」と「ドイツ語で話そう！」を立ち上げ、授業期間中、週1回の頻度で開催された。

¹ 京都産業大学 教育支援研究開発センター グローバルコモンズ、² 京都産業大学 外国語学部 ヨーロッパ言語学科ロシア語専攻、³ 京都産業大学 外国語学部 ヨーロッパ言語学科スペイン語専攻、⁴ 2022年秋学期 交換留学生（サンクトペテルブルグ国立大学）（現所属先：5-line）

本稿では、本学の GC におけるアクティブラーニングの実践例として、学生主導の3つの多言語イベント（ロシア語・スペイン語・ドイツ語）を取り上げ、担当した学生スタッフと共に、各イベントの立ち上げの経緯と概要、実績を報告する。また、アンケートとヒアリングの結果を基に、イベント活動を通じた学生スタッフたちの主体的な学びと経験について述べる。更に、学習支援の立場から考察を行う。

2. 多言語イベント：立ち上げの経緯と実施概要

本章では、LINK 主導の多言語イベント「ロシア語で話そう！」「スペイン語で話そう！」「ドイツ語で話そう！」に焦点を当て、各イベントの立ち上げ時の背景と概要について説明する。その後、2023 年春学期の参加実績を基に、各イベントの動向や学生の参加状況について考察する。

2.1. 「ロシア語で話そう！」

2.1.1. 2022 年秋学期：イベント開催のきっかけ

2022 年 11 月に、ロシア人交換留学生（留学生 A）が「DiE のようなイベントを、ロシア語でも定期開催したいがどうしたらよいか」と GC に相談にやってきた。彼女は、「日本にいる間に、ロシア語を学習する学生の手助けをしたい」という思いを語った。

当時 GC では、英語に関するイベントは、様々な形で、毎週定期開催をしていたが、多言語イベントは、ほとんどが1回限りの開催であった。彼女の希望を受けて、学習支援スタッフが、イベント参加者の中からロシア語専攻の学生3名（内 LINK スタッフ1名）に声をかけ、翌週にミーティングを持った。そこには、ロシア語専攻の学生10名が集まり、ロシア語で自己紹介をするなど、大いに盛り上がった。留学生 A を含む参加者全員で話し合った結果、ロシア語の会話イベントを火曜と木曜の毎週2回、全員が参加しやすい昼休み（12:20～13:00）に定期的に開催することに決まった。イベント名を「ロシア語で話そう！」とし、LINK スタッフが、告知用のポスターを作成することになった。

このように、「ロシア語で話そう！」は、留学生 A の挑戦、つまり、思いを具体的な行動に移したことがきっかけとなり実現したイベントである。

2.1.2. ロシア人留学生主導によるイベントの開催

前述のとおり、「ロシア語で話そう！」は、2022 年秋学期の 11 月に開始され、留学生 A の主導のもと、週に2回のペースで実施した。毎回7～10

名の参加があり、多い時は10名を超える場合もあった。継続参加者は、ロシア語専攻の学生が大半を占めていたが、経済学部やスペイン語専攻の学生なども数名含まれていた。参加者は、ロシア語やロシア文化への関心が非常に高く、熱心かつ真剣にイベントに取り組む姿が見られた。

イベントでは、留学生 A が自らコンテンツを用意し、熱心に進められた。自作の配布資料を活用して会話練習を行ったり、ロシアで人気のアニメ動画を視聴して語り合ったり、ロシアの歌を聴きながら発音の練習を行ったりと、毎回工夫に富んだ内容だった。留学生 A を中心に、身近な話題で楽しく交流する場面もあった。難しい表現や文化の違いに直面した際には、参加者たちが一生懸命に日本語、ロシア語、または英語を駆使して理解を図る様子が見られた。40分という短い時間ではあったが、参加者は、とても楽しそうで、充実した時間を過ごしているようだった。（写真1）



写真1: ロシアのアニメを見ながら語り合う様子

2.1.3. ロシア人交換留学生の所感

半年間の留学を終え、帰国直前に留学生 A にイベントに関する感想を尋ねた。

【インタビュー】（※インタビュー全体の和訳から抜粋）

実施日時：2023年2月9日 11:03～11:16

実施形態：オンライン（Teams）

使用言語：英語

「ロシア語で話そう！」を通じて、自分の母語を使って参加者の皆さんの手助けができてよかった。私の大学では、ネイティブスピーカーと会話する機会がほとんどなく、残念に思うことがある。この大学では、イベントを通じて、留学生がネイティブスピーカーとして学習者に話す機会を提供することができるので、役立ちたいと思った。最初は、レベル感がつかめず、参加者が求めるものがわからず戸惑った。終了後に、参加者の反応を見たり意見をきいたりしながら、次回の内容を試行錯誤しながら決めていた。また、ネイティブスピーカーには当然のことを、相手にわかるように

説明することの難しさと大切さに気付かされた。回を重ねるごとに、徐々に言語を教えることのコツがわかってきたように思う。参加者が私から学ぶと同時に、私が彼らから教えられていたと感じる。この貴重な経験を帰国後も役立てたい。

2.1.4. ロシア人留学生帰国後のイベント開催

留学生 A の帰国後、外国語学部ロシア語専攻（3 年次）の学生 B から、同イベントを主催者として引き継ぎたいと申し出があった。学生 B のロシア語の習熟度はかなり高く、主催には全く問題がなかったが、彼にとっては大きな挑戦であったことは間違いない。留学生 A の思いを引き継ぎ、今後もロシア語を話す場を提供していく強い意欲が感じられた。参加者もそれを望んでおり、開催曜日と時間は前学期と同様に設定し、イベントの名称もそのまま継続することになった。

イベントの内容については、「初学者（特に 1 年生）には、文法や語彙を増やすための手助けをしたい」「中級者には、ロシア語を実践的に使う場を提供したい」「春学期に到着する留学生にも協力を呼び掛けて異文化交流の場にしたい」など、学生 B から具体的な方向性が示された。

また、ロシア語学習用のカードやゲームが、手に入りにくいいため、学生 B が、会話表現集やカルタを作製した。手作りカルタには、「語彙カルタ」と「質問カルタ」の 2 種類があり、アクティビティで活用した。

2.1.5. 実施概要とアクティビティ

以下、学生から提出された企画書とヒアリングを基に、実施概要とアクティビティの内容についてまとめる。

■実施概要

【期間】 4 月 3 日～7 月 20 日（27 回）

【日時】 毎週火・木の昼休み（12:20～13:00）

【対象】 全学生・教職員

ロシア語専攻、第二外国語としてロシア語を選択している人、ロシア語に興味がある人

■アクティビティ

【初級】 初学者（主にロシア語専攻 1 年次）対象

- ・ 自作資料を使って基本の会話表現練習
- ・ 語彙カルタ：読み上げたカードを取る。取った人がその単語の意味を答える。（写真 2）
- ・ 質問カルタ：読み上げたカードを取る。取った人が書かれた質問に答える。
- ・ ロシアの歌をみんなで歌う

ロシアの歌の動画を視聴し、発音と意味を確認する。その後、声に出して歌いながら発音練習。

例) Катюша / Калинка / доро

гой длинной / Валенки など
【中級】

・ ロシア語会話

「夏休みの予定」や「好きな食べ物」など、身近な話題で語り合う。

【留学生との交流（日本語&ロシア語）】

留学生と一緒に雑談をしたり、英語学習用のカードゲームをする。ゲームの最中に咄嗟に出る口語表現（ロシア語/日本語）などが身につく。



写真 2: 留学生と手作りの語彙カルタをする様子

2.2. 「スペイン語で話そう！」

2.2.1. 2023 年春学期：イベント開催のきっかけ

2023 年 4 月下旬に、スペイン語専攻（2 年次）の学生 C と学生 D から、スペイン語の会話イベントを開催したいとの相談があった。直後に打ち合わせを持ち、イベント開催の動機と目的についてヒアリングした。打ち合わせには、イベント主催に関する意見やアドバイスのために学生 B も参加した。

学生 C と学生 D は、「ロシア語で話そう！」に刺激を受けて、スペイン語でも同様のイベントを試してみたいと動機を語った。また、「授業外でもスペイン語で会話の練習をする場が欲しい」「スペイン語に興味を持っている人がスペイン語に触れる機会を提供したい」といったイベントの目的も語った。更に、「片言でも All in Spanish でやりたい」と大変前向きな姿勢で、「イベント主催を通じて、自身の語学スキル向上にもつなげたい」との意欲が感じられた。

イベント名は、「スペイン語で話そう！」とし、週に 1 回、金曜に開催することが決まった。

2.2.2. 実施概要とアクティビティ

以下、学生から提出された企画書とヒアリングを基に、実施概要とアクティビティの内容についてまとめる。

■実施概要

【期間】 5 月 19 日～7 月 21 （10 回）

【日時】 毎週金曜の昼休み（12:30～13:00）

【対象】 全学生・教職員

スペイン語専攻、第二外国語としてスペイン語を専攻している人、スペイン語に興味がある人

■アクティビティ

【初級】スペイン語の基本語彙を学ぶ

- ・カードゲームをスペイン語でする。
使用ゲーム：Headbanz（「私は誰ですか？」ゲーム）やスペイン語版 Bingo（写真3）
- ・色や数字などの基本語彙をまとめた自作の資料を使って、発音の練習

【中級】スペイン語会話

- ・テーマを決めて、スペイン語で会話をする（自己紹介、自分の趣味、週末の予定など）
- ・留学生が参加した際は、自国の文化についてスペイン語で質問をする

【留学生との交流】

春学期は、メキシコとチリからの交換留学生（2名）が、参加し、互いに交流を深めた。春学期終了後、半年間の留学を終えて帰国する交換留学生のために、フェアウェルイベントを開催した。参加者は色紙に一言ずつ、スペイン語でメッセージを書き、それを寄せ書きとして贈った。（写真4）



写真3：「私は誰ですか？」ゲームの様子



写真4：交換留学生へ贈った寄せ書き

2.3. 「ドイツ語で話そう！」

2.3.1 2023年春学期：イベント開催のきっかけ

2023年4月下旬に、ロシア語専攻3年次の学生Eから、ドイツ語会話のイベントを開催したいと

の申し出があった。学生Eは、「ロシア語で話そう！」の継続参加者で、同様のイベントをドイツ語でも開催したいと語った。

学生Eは、高校の時からドイツ語を独学で学習をし、文法や語彙に関しては、初学者をサポートできる自信があるとのことだった。また、簡単な日常会話をこなせると語った。更に、学生Eは、ロシア語やドイツ語以外にも、フランス語やラテン語を含む、世界各国の言語や言語の歴史に興味をもって、普段から自主的に学びを深めている。

申し出のあった直後に打ち合わせを持ち、学習支援スタッフからイベント企画から開催までの流れを説明した後、イベント開催の動機や目的、内容などについてヒアリングした。「ドイツ語は、学習者が多いにもかかわらず、実際に話す機会はあまり多くない。ドイツ語を使って話す場を提供することは、ドイツ語学習者の役に立つ」と学生のニーズに基づく動機を語った。その上で、イベントの目的は、「会話に重点を置き、ドイツ語を聞くこと/話すことに慣れること」とし、「参加者のレベルは問わず、参加者の習熟度に応じて内容は随時調整していきたい」と主催者の立場での考えを語った。

また、挨拶や自己紹介等、ドイツ語の基本会話表現集や色に関する資料を独自で作製し、アクティビティの中で活用した。

2.3.2. 実施概要とアクティビティ

以下、学生から提出された企画書とヒアリングの内容を基に実施概要とアクティビティの内容についてまとめる。

■実施概要

【期間】5月24日～7月24日（10回）

【日時】毎週月曜の昼休み（12:20～13:00）

【対象】全学生・教職員

ドイツ語学習者およびドイツ語に興味のある人

■アクティビティ

【初級】基本の語彙を使った発話練習

- ・自作の資料を参考にしながら、自己紹介や趣味などを言えるように発話練習をする。
- ・文法や文の構造の説明
- ・役立つ例文を紹介

※配布資料は初心者向けに自作している。初心者は、それを見ながら英作ができるので、参加しやすくなる。（写真5）

【中級】テーマを決めてドイツ語でディスカッション

- ・ドイツ語専攻の学生やすでにある程度ドイツ語を習得している学生は、身近なテーマで話し合う

【混合レベル】参加者が少なく、グループ分けが難

しい場合は、レベルにかかわらず全員が楽しめるカードゲーム「AGO」をする。(写真6)

【その他】ドイツ語やドイツの文化について日本語で語り合う

- ・ドイツの音楽やことわざ、有名な小説などを鑑賞
- ・文法や発音などで気になる点を共有し、教え合う

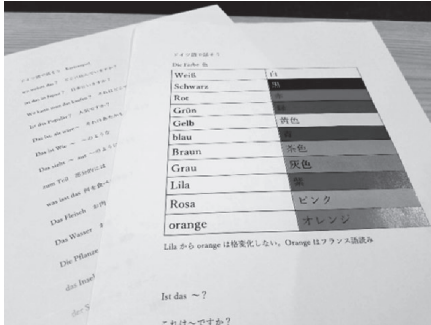


写真5: 手作りの配布資料(会話表現/色の単語)



写真6: カードゲームをする様子

2.4. 2023 年春学期 多言語イベント実施概要

上述の通り、2022 年 11 月に開始した「ロシア語で話そう!」をきっかけとして、2023 年春学期には、スペイン語、ドイツ語が加わり、3つの言語の「話そう!」イベントを定期開催した。各イベントの実施概要を表1にまとめた。

2.5. 2023 年春学期 多言語イベント参加者集計

春学期終了後、各イベントの参加者集計を表2にまとめた。その結果を基に、イベントの動向と学生の参加状況について考察する。

2023 年春学期に LINK 主導で開催したロシア語、スペイン語、ドイツ語のイベントは、いずれも多く参加者を集め、高い満足度を得ていることがうかがえる。

参加者数を見ると、ロシア語は毎週2回、学期中に27回開催され、延べ232名が参加した。一方で、スペイン語とドイツ語は、毎週1回、学期

中に10回開催され、それぞれ、延べ110名、91名が参加した。

継続参加者については、ロシア語では、学期中に12回以上、スペイン語とドイツ語では、5回以上の参加に絞って算出したところ、それぞれ10名、11名、9名となった。継続参加者の多さが、イベントの人気だけでなく、ニーズの高さを示している。なお、ロシア語とスペイン語のイベントには、対象言語を母語とする交換留学生も、頻繁に参加していた。

参加者の学部・専攻別の属性を見ると、ロシア語イベントの参加者の大半が、外国語学部ロシア語専攻の学生であることが明らかである。データでは見て取れないが、ロシア語専攻の学生と共に、経済学部の学生1名とスペイン語専攻の学生1名が、ほぼ毎回継続的に参加していた。

スペイン語イベントでは、参加者の半数近くをスペイン語専攻の学生が占めつつも、ロシア語イベントの継続参加者の多くが掛け持ちで参加していた。その他、スペイン語のイベントには、継続参加まで至らなくても、経済学部をはじめとする様々な学部・学科からの学生が参加していた。このことは、スペイン語に興味を持つ学生の層が広いことを示唆している。

ドイツ語イベントでも、ロシア語専攻の学生が最も多く参加した。このイベントを主催する LINK スタッフもまたロシア語専攻である。継続参加者の中には、ドイツ語専攻の学生の他にも、社会人として海外経験を持つ科目履修生も含まれており、ドイツ語を介して、異なるバックグラウンドを持つ参加者同士の交流の場となっていた。また、ドイツに興味がある初学者も参加しており、参加者間のレベル差が目立った。

年次別では、どのイベントにおいても、1~3年次までの参加が7割以上を占め、学年による偏りは少なかった。このことから、3つの多言語イベントが幅広い学生層に受け入れられ、イベントを通じて、学年を超えたつながりを生む場となったのではないかと推察できる。

交換留学生の参加については、ロシア語イベントでは、ほぼ毎回1名のロシア人交換留学生が参加した。また、スペイン語イベントでは、メキシコ人とチリ人の交換留学生が、定期的に参加した。一方、ドイツ語イベントには、参加がなかった。交換留学生の参加により、イベントは異文化交流の場となり、参加者のモチベーションが向上し、活気づく。多言語イベントにおける、ネイティブスピーカーの存在の重要性を強く感じる。

表1. 2023年春学期 多言語イベント実施概要

イベント名	ロシア語で話そう！	スペイン語で話そう！	ドイツ語で話そう！
開催期間 (2023年春学期)	4月3日～7月20日	5月19日～7月21日	5月24日～7月24日
曜日	火曜・木曜	金曜	月曜
時間	12:20～13:00	12:30～13:00	12:20～13:00
実施回数	27回	10回	10回
場所	GC内 オープンクラスルーム	GC内オープンクラスルーム	GC内オープンクラスルーム
対象	全学生・教職員	全学生・教職員	全学生・教職員
レベル	初級～中級	初級～中級	初級～中級
実施内容 ※ポスト案内文より	初級:用意した資料を用いて、発音練習をしたり、基本的な会話表現や単語を覚えたりする 中級:毎週異なるテーマでディスカッション	初級:日常生活(挨拶や自己紹介など)の練習をする。ゲームを使って、基本単語や表現を楽しく学ぶ。 中級:身近なトピックで雑談(趣味や週末の話など)	初級:自己紹介・カードゲーム 中級:身近な話題でディスカッション その他:ドイツ語の音楽やことわざ、有名な小説などを鑑賞 文法や発音で気になることを相談しあう
ポスター			

表2. 2023年春学期 多言語イベント参加者集計

イベント名	ロシア語で話そう！	スペイン語で話そう！	ドイツ語で話そう！
参加者数 (延べ)	232名	110名	91名
実質参加者	24名 (内ロシア人留学生2名)	29名 (チリ人留学生1名、メキシコ人留学生1名、教員2名含む)	21名 (教員1名含む)
継続参加者 (参加回数)	10名 (全27回の内12回以上参加)	11名 (全10回の内5回以上参加)	9名 (全10回の内5回以上参加)
参加者属性 (学部・専攻)			
参加者属性 (年次)			

3. 学生スタッフの経験と学び

2023年度春学期終了後に、多言語イベントを主催した4名の学生スタッフを対象に、ファシリ

テータとしての役割に対する意欲と満足度、および成長実感に関する調査を行った(表3)。本章では、アンケートとヒアリング結果を基に、学生スタッフの経験と成長実感について、「ファシリテ

タとしての意識」及び「語学」と「語学以外」の3つの側面から考察する。

【調査対象】

2023年春学期に、多言語イベントを主催した学生スタッフ4名（ロシア語1名、ドイツ語1名、スペイン語2名）

【実施方法】

アンケート（Microsoft Forms）の回答結果を基に、各イベント担当スタッフに対し、個別にヒアリング（30分～1時間）を、対面またはオンラインで実施した。

3.1. 結果の考察

3.1.1 ファシリテータの役割についての意識

表3のアンケート結果のQ1とQ2の回答を見ると、担当者4名全員が、ファシリテータとしての役割に意欲的に取り組み、またその役割を楽しんでいることが確認できた。

Q1とQ2の回答に関するヒアリングで、「ファシリテータとしてのやりがいや楽しいと感じるのはどんな時か」と尋ねたところ、全員一致して、「参加者が（たくさん）来てくれた時」と答えた。その他、「話が盛り上がり参加者が楽しそうにしているとき」「自分の意図したことが（参加者に）伝わった時」という回答が多かった。「留学生や興味関心が同じ人とつながれた時」という回答もあった。逆に、「ファシリテータとして、難しさを感じるのはどんな時か」という質問には、「参加者が退屈そうにしている時や話が盛り上がらなかったとき」「（自分の）勉強不足を感じる時」「頼られる存在としてしっかりと受け答えしないといけない」などの回答があった。また、「初学者への対応」「参加者にレベル差がある時」など、参加者の語学レベルに合わせてトピックやアクティビティを選ぶことに苦戦することがあるとのことであった。レベルに関係なく楽しめるゲームもあるが、「毎回ゲームばかりでも学びが偏りがちになる」との意見もあった。

上記の結果から、参加者にとってイベントを楽しく、学びの多いものにしようとする意欲と工夫、そして主催者としての責任感がどの学生からも感じられた。

Q3では、ファシリテータの役割を実際に経験する前の対象言語に対する自信の程度について尋ねた。結果は、「自信があった」2名、「どちらとも言えない」1名、「どちらかという自信がなかった」1名、と回答に個人差があった。

Q3の回答の理由について、ヒアリングで確認したところ、以下のことが分かった。「自信があっ

た」と回答した学生は、専攻と一致していたり、学習経験が十分にあるので、対象言語を教えたり、質問に答えたりすることができると感じていた。一方、「どちらともいえない」「どちらかという自信がなかった」と回答した学生は、「自分よりもスキルの高い学生や留学生に対応ができるか不安だったから」と当初は語学スキル面の不安が先行していたことが分かった。しかし、「回を重ねるごとにあまり緊張しなくなった」「だんだんとコツがわかってきたので自分も楽しめるようになった」など、当初の不安は徐々に薄れていったことも確認した。このことは、Q6の項目2「語学のスキルに自信が持てるようになった」において、4名全員が「どちらかというと思う」と回答していることから確認できる。学生たちの初期の語学スキルへの不安は、実際の経験を通じて解消され、自信が向上したことが明らかである。

Q4の「ファシリテータの役割を通じて成長と学びを得たか」という問いに、4名の内3名が「当てはまる」、1名が「どちらとも言えない」と回答した。

Q4の回答の理由について、ヒアリングで確認したところ、「どちらとも言えない」と回答した学生は、「担当開始からまだ半年（1学期間）しかたっていないので明確に判断できない」と述べた。一方、「当てはまる」と回答した学生たちが成長を感じている点として、「司会の仕方や（参加者への）質問力が身についた」「コミュニケーション力が付いた」「人と積極的にかかわれるようになった」「知らない人に話しかけることが楽にできるようになった」などが挙げられた。学生の成長実感については、後述の、Q6～9のアンケート結果でも確認する。

Q5のLINK活動全般に対する満足度に関する質問では、4名全員が、「満足している」と「どちらかといえば満足している」のいずれかに回答した。この結果から、多言語イベントを担当する学生スタッフ全員がLINK活動に、概ね満足していることが確認できた。

3.1.2 語学面での成長実感

Q6～7では、Q4で確認した成長実感に基づいて、語学面でどのような成長を感じたかについて質問した。項目2「対象言語の語学スキルに自信が持てるようになった」では、4名全員が「どちらかといえばそう思う」と回答した。また、項目3「スピーキング力が付いた」、項目5「語彙や表現が増えた」、項目6「文法力が付いた」の回答に見るように、ファシリテータの経験が、多くの場合、対象言語での「スピーキング力」「文法」「語彙・表

表3. アンケート結果

Q1. 多言語のファシリテータとしての役割に意欲的に取り組めたか

そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
1	3	0	0	0

Q4. ファシリテータの経験を通じて、成長や学びを得られたか

当てはまる	どちらともいえない	当てはまらない
3	1	0

Q2. 多言語のファシリテータとしての役割を楽しんでいるか

そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
3	1	0	0	0

Q5. LINK活動全般についての満足度について

満足している	どちらかといえば 満足している	どちらとも いえない	どちらかといえば 満足していない	満足していない
2	2	0	0	0

Q3. 多言語のファシリテータを担当する前の自分の対象言語に対する自信について

自信があった	どちらかといえば 自信があった	どちらとも いえない	どちらかといえば 自信がなかった	自信がなかった
0	2	1	1	0

Q6. 【語学面についての質問】ファシリテータとしての経験を通して、語学面においてどのような成長を感じましたか。

項目	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
1. 語学のスキルが全体的に向上した	0	3	0	0	1
2. 語学のスキルに自信が持てるようになった	0	4	0	0	0
3. スピーキング力が付いた	1	2	0	0	1
4. リスニング力が向上した	1	0	2	1	0
5. 語彙や表現が増えた	1	2	0	1	0
6. 文法力が付いた	0	3	0	1	0
7. 対象言語への学習意欲が(さらに)高まった	3	0	0	1	0

Q7. 上記の回答以外に、【語学面で】自分の成長について感じたこと

- ・対象としている言語に触れる時間が増えたのは自身の語学面での成長になった
- ・対象言語でその語について説明する力が少しついたと感じた
- ・どうしたら参加者が増えるのか、どうしたら継続してきてくれるのかがわかってきた

Q8. 【語学以外についての質問】ファシリテータとしての経験を通して、語学以外の面においてどのような成長を感じましたか。

項目	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
1. 交友関係がひろがった	2	2	0	0	0
2. 周囲に気が配れるようになった	0	3	0	1	0
3. 人と関わることに意欲的になった	3	1	0	0	0
4. 人前で話すことに慣れた	2	2	0	0	0
5. 自分の意見を言うことに慣れた	2	0	1	0	1
6. 他人の意見に耳を傾けられるようになった	2	1	1	0	0
7. 他者と協力して活動することに慣れた	2	0	1	0	1
8. 他者に提案や助言ができるようになった	1	2	0	0	1
9. リーダーシップ能力が向上した	1	2	0	0	1
10. 興味関心の幅が広がった	1	1	1	0	1
11. 異文化に関する理解が深まった	3	0	1	0	1
12. 新たなことにチャレンジしようという意欲が高まった	2	1	0	0	1
13. ファシリテータとしての経験を、その他の活動(授業、留学、進学、就活など)に活かすことができている。	1	0	2	0	1
14. 主体的に行動できるようになった	2	1	0	0	1

Q9. 上記の回答以外に、【語学面以外で】自分の成長について感じたこと

- ・前より積極的に行動できるようになったと思う 質問力がついた
- ・良くも悪くも視野が狭かったのでいろいろな人との交流をして少しは視野が広がったと思う
- ・どうしたら参加者が増えるのか、どうしたら継続してきてくれるのかがわかってきた

現力」の向上に結び付いたことが確認できる。さらに、項目7を見ると、4名中3名が、「対象言語への学習意欲が(さらに)高まった」と答えた。

上記のアンケート結果を基に行ったヒアリングでは、「留学生と対象言語で話すことで、表現が学べた」「授業ではインプット中心だが、このイベントが使う場となっている」などの声がかかれた。各イベントが、対象言語を使いながら学ぶ場となっていることが確認できた。また、「主催者として頼られる立場なので、質問に答えられないと悔

しいから、イベントの前に準備や勉強をしている」という声もあった。学習者でありながら、イベントの主催者として意識と責任感が高まることで、対象言語への学習意欲がより一層高まったといえる。

3.1.3 語学以外の面での成長実感

Q8～9では、Q4の成長実感の質問に基づいて、語学以外の面でのどのような成長を感じたかについて質問した。まず、項目1「交友関係がひろがった」と項目3「人と関わることに意欲的になっ

た)、項目4「人前で話すことに慣れた」において、4名全員が「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と答えた。また、項目2「周囲に気が配れるようになった」、項目6「他人の意見に耳を傾けられるようになった」、項目7「他の人と協力をして活動することに慣れた」、項目11「異文化に関する理解が深まった」の結果から、「対人関係のスキル」「他者理解」「異文化理解」の向上につながっていると考えることができる。更に、項目9「リーダーシップ能力が向上した」、項目12「新たなことにチャレンジしようという意欲が高まった」、項目14「主体的に行動できるようになった」の結果からは、ファシリテータの役割を担うことで、個人差はあるものの、「リーダーシップ」「異文化理解」「主体的な行動力」「チャレンジ精神」などの涵養につながっていると推察できる。一方で、項目13「ファシリテータとしての経験を、その他の活動(授業、留学、進学、就活など)に活かすことができている」に関しては、「そう思う」と回答したのは1名だけであった。

これらの結果から、ファシリテータとしての経験が単なる語学スキル向上だけでなく、「対人関係」、「リーダーシップ」、「異文化理解」、「主体性」など、様々なスキルや資質、能力の向上に寄与していることが確認できる。

更に、ヒアリングで具体的な考えをきいたところ、イベントを主催することで、「興味を共有する人と出会う機会が増えた」「留学生と知り合うきっかけとなった」と全員が「交流の広がり」について実感していると述べた。また、「授業でグループワークをする際に、メンバーの意見をじっくりと聞くようになった」また「消極的なメンバーに声をかけられるようになった」「質問のスキルが向上した」といった意見も出た。その他にも、「他のイベントへの参加者としては、受け身な態度で気づかなかつたが、ファシリテータになってから、参加者全員に気が配れるようになった」といった声もあった。このように、学生自身が、ファシリテータとしての経験から対人関係や他者理解に良い影響を受け、その効果を実感していることが確認できた。

一方、項目13で、「どちらともいえない」「そう思わない」と回答した学生は、回答理由として、「社会的な状況で留学に行けないから活かしていない」「まだ、成長が明確にわからないので、先のことが今はよくわからない」と述べた。

4. 学習支援の視点からの考察と展望

本稿では、2023年春学期にGCで開催したLINK主導の多言語イベント、「ロシア語で話そう!」「スペイン語で話そう!」「ドイツ語で話そう!」に焦点を当て、立ち上げの背景と実施概要、実績を報告した。また、アンケートとヒアリングの結果を基に、イベントを主催した学生スタッフの経験と学びについて共有した。本章では、LINK主導の3つの多言語イベントの実施から見えてきたものをGCにおける学習支援の視点から述べる。

本学のGCでは、外国語学習と異文化理解の促進を目的として、これまでも英語以外の言語を対象とした多言語イベントを数多く開催してきた。しかし、本稿で紹介した3つの多言語イベントは、これまでのイベントと比較して、開催規模の点で格段に大きく、参加学生の取り組む姿勢も非常に熱心である。

これまでは、学期中1言語につき1~数回限定の開催が主流であった。義務教育となっている英語と比べて、学習者の数が少ない外国語のイベントがこんなに活気づいたのは、主催する学生スタッフたちの担当言語に対する「学習意欲の高さ」と「言語を使う場が欲しい」という熱意、そして、その場を「他の学生と共有したい」という前向きな姿勢に他ならない。彼らの熱意が、同じ言語に関心を持つ学生を引き寄せながら、どんどん交流の輪が広がっていった。イベント開催中は、各自が自発的な意欲で、楽しみながら学びを深めている姿が見られる。そして、イベント終了後も、互いに語り合い、教え合い、励まし合いながら、熱心に語学学習に取り組んでいる。イベントが、彼らにとって、「学びの場」「語らいの場」であると同時に、「リラックスできる居場所」となっているようにも感じられる。

本学では、11言語を学ぶことができる。更に、世界中の交流提携校から異なる言語を母語とする交換留学生を受け入れている。この言語的に多様な環境を考慮すると、本稿で取り上げた言語以外についても同様のイベントを企画・開催することで、外国語を通じた新たな交流の場や学びの機会が生まれることが大いに期待できる。また、留学生の参加により、異文化理解が一層深まり、国際コミュニケーション能力を向上させる貴重な場となり得る。異なる言語を共有するイベントを通じて、学生たちは語学力だけでなく、多角的な視野を身に着けたり、自国の文化を再発見するなど、豊かな経験を得ることができる。学習支

援として、本学の言語的多様性を活かして、学生のイベント活動に結びつけることで、新たな可能性を開拓する余地があると考えている。

LINK 始動から 2 年半にわたり、熱心で意欲的な学生スタッフたちが、外国語や異文化について楽しみながら学び、学生同士を結ぶ様々なイベントを提供してきた。イベントの種類や内容は多岐にわたり、学生の創意工夫と積極的な声掛けで多くの参加者を集めている。コロナ終息後は、留学生の参加も増えた。

学生の主体性を重視する LINK のイベントは、学生自身の「こんなイベントをやってみたい」という提案やアイデアから始まる。そして、学生が自主的に行動し、試行錯誤の積み重ねがイベントとして実現され、多くの成果を生み出す。このような挑戦や経験を通じて、学生スタッフは努力と成功体験を積むことができ、それが自信や成長実感につながっているのではないかと。

学習支援の立場から、イベント活動が、学生スタッフの主体的な学びと成長、将来役に立つスキルにつながる場となるよう、学生スタッフへのサポートを一層充実させる必要性を感じている。学生との対話やアンケートでの振り返り、研修での学生の声に耳を傾けながら、検証を繰り返し、よりよい活動に向けて支援を続けていきたい。

参考文献

- 遠藤美由樹, 杉江昌子 (2022) 「グローバルコモンズにおける能動的学習の実践: 英語ディスカッションイベントを通じた学生の成長実感とその考察」大学教育学会第 44 回, 岡山. 2022 年 6 月 5 日
- 京都産業大学 (2023) 「【LINK 活動レポート】多言語イベント『ロシア語で話そう!』を開催しました!」
https://www.kyoto-su.ac.jp/news/20231101_857_rosiango.html (取得 2022.10.16)
- 京都産業大学 教育支援研究開発センター (2023) 「グローバルコモンズ LINK イベント「ロシア語で話そう!」を通じた学生たちの学び」『CERADES News』 24:4
- 杉江昌子 (2023) 「グローバルコモンズにおけるアクティブラーニング実践報告—「LINK」主導の英語ディスカッションイベントを通じた学生の成長実感—」『高等教育フォーラム』 13: 121-133
- Renninger, K.A., & Hidi, S.E. (2016) *The Power of Interest for Motivation and Engagement*. Routledge, New York: 96

Report on Student-Led Multilingual Speaking Events in the Global Commons: Proactive Efforts and Learning of Student Staff through Organizing “Let’s Chat” Events

Masako SUGIE¹, Ryoga FUNAYAMA²,
Koki YOSHIMOTO², Yuiha DEGUCHI³,
Yuine HARADA³, Veronika MOLCHUNOVA⁴

Global Commons (GC) student volunteer staff (LINK), launched in April 2021, has been holding various events that connect students with each other while exposing them to foreign languages and cultures. Discussion in English (DiE), an event initially started, continues to attract many participants. Following in the footsteps of DiE, new events have been created, taking advantage of students’ majors and areas of expertise. More recently, conversation events dealing with languages other than English, which were previously thought to be difficult to organize, have been becoming lively. In this paper, we report on the background, outline, and implementation of the three “Let’s Chat!” events in Russian, Spanish, and German, together with the student staff who organized them. We will also share their learning and experiences through proactive activities. Furthermore, we will discuss the challenges and future prospects from the perspective of student staff development.

KEYWORDS: Multilingual Speaking Events, Student Staff, Proactive Interactive Deep Learning, Learning Support, Active Learning

2023 年 12 月 5 日受理

1 Global Commons, Center for Research and Development for Educational Support Office, Kyoto Sangyo University

2 Faculty of Foreign Studies, Department of European Languages, Russian, Kyoto Sangyo University

3 Faculty of Foreign Studies, Department of European Languages, Spanish, Kyoto Sangyo University

4 Exchange Student (Saint-Petersburg State University) in Fall Semester 2022 (Current Affiliation: 5-line)